

千葉県感染症発生動向調査情報

2017年 第5週 (1/30-2/5) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		5週	4週	3週	2週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千		葉		市		千葉県
		注意報	1/30-2/5	1/23-1/29	1/16-1/22	1/9-1/15	1/23-1/29	
			5週	4週	3週	2週	4週	
小児科	RSウイルス感染症		4	3	1	2	15	
	咽頭結膜熱		2	0	1	1	10	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		41	42	39	22	440	
	感染性胃腸炎		88	97	113	127	635	
	水痘		5	4	7	4	38	
	手足口病		2	1	0	2	18	
	伝染性紅斑		4	0	1	1	13	
	突発性発しん		9	8	6	7	44	
	百日咳		1	0	0	0	0	
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	2	
	流行性耳下腺炎		4	1	6	10	32	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	★★★↓	1,052	1,213	878	452	11,050	
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	1	0	
	流行性角結膜炎		0	1	1	4	22	
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0	
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0	
	マイコプラズマ肺炎		0	0	2	2	6	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0	

★★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出等	E型肝炎	男性	70歳代	血清IgA抗体の検出
結核	男性	60歳代	画像診断	急性脳炎	男性	10歳未満	中枢神経症状等
結核	男性	80歳代	IGRA検査等	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	70歳代	病原体の検出
結核	女性	20歳代	IGRA検査	-	-	-	-

*第5週は、結核4件(21)、E型肝炎1件(2)、急性脳炎1件(1)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(4)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第5週のコメント

<インフルエンザ>前週より減少し37.57となった。流行発生警報開始基準値を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■
 <インフルエンザ>

全国レベルの2017年第4週は、流行発生注意報基準値(10.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると2015年に次いで多くなっています。都道府県別では、宮崎県、福岡県、愛知県に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の2017年第5週は、前週より減少し37.57となっています。流行発生警報開始基準値(30.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、中央区(47.0/定点)で流行発生警報開始基準値を上回り最多で、同区の10歳代前半で最も多く、一年代当たりでは7歳で最も多く発生報告がありました。この他、緑区(44.0/定点)、若葉区(39.0/定点)、稲毛区(36.0/定点)、美浜区(34.5/定点)で流行発生警報開始基準値を上回っており、花見川区(22.5/定点)で流行発生注意報基準値を上回ったままとなっています。今シーズンである2016年第36週から2017年第5週までの累積報告数(n=4529)によると、性別では男性が50.6%(2272名)、女性が49.4%(2257名)で、一年代当たりの年齢階級別では7歳(6.8%:307名)、5歳(5.8%:263名)、4歳(5.6%:254名)の順に多くなっており、20歳未満は全体の71.3%、10歳未満は全体の45.5%となっています。

※2009-2010年のパンデミックは割愛しています。

